

ドライアイ

乾燥し目の表面に傷

はりがや眼科

院長 針谷 紀 先生

最近では、ドライアイという病名は、すっかりとおなじみになりましたが、「ドライアイ＝乾いた目＝涙が少ない」と考えている人が多いのではないのでしょうか。そのようなドライアイの人もいますが、ドライアイは、涙の不足だけではなく、涙の成分が変化して質が悪くなることで生じることも少なくないのです。涙の質が悪くなることにより、涙が蒸発しやすくなり、目が乾くのです。

つまりドライアイとは、涙の量が減ったり成分が変化したりすることで涙の働きが悪くなり、目の表面が乾燥し、傷ができてしまう病気なのです。

しかしながら目の乾きを感じる患者はそう多くはありません。なぜなら「目が疲れやすい」「しょぼしょぼする」などいろいろな目の不快感として表れてくるからです。具体的にはコンタクトレンズの長時間装用やパソコン、携帯メールの長時間使用、自動車の運転時（特に夜間）でもドライアイの症状が表れることがあります。

治療方法は、症状や状態によって正しく選択する必要があり、市販の目薬だけをさしておけばよいものではありません。軽いドライアイの場合は、市販の目薬をさせばよい人もいますが、症状が重い場合は角膜に傷がついていることがありますので、治療用の目薬を使う必要があります。重症のドライアイの場合には、涙の出口にシリコーン製の栓（プラグ）をする手術が必要なこともあるのです。

涙が少なくなったり、乾きやすくなったりすることによりさまざまな症状が表れ、快適にものを見ることができなくなるのがドライアイです。「目が疲れる」「すっきりしない」「パソコンで仕事をすると疲れる」「コンタクトレンズの具合が良くない」このような人は、ドライアイの可能性があるので、一度眼科にご相談ください。